

# こころん だより

Vol. **7**  
2018 Winter



こころん

■ 特集1

## 性的マイノリティの人権

文：長澤 紀美子氏 高知県立大学社会福祉学部教授 /  
ソーシャルアライ・コナツハット共同代表

■ 特集2

## こころんの社会見学 オレンジリボン運動の現場から

谷本 恭子氏 高知オレンジリボンキャンペーン実行委員長



# 性的マイノリティの人権

文：長澤 紀美子氏  
(高知県立大学社会福祉学部教授 / ソーシャルアライ・コナツハット共同代表)

## はじめに

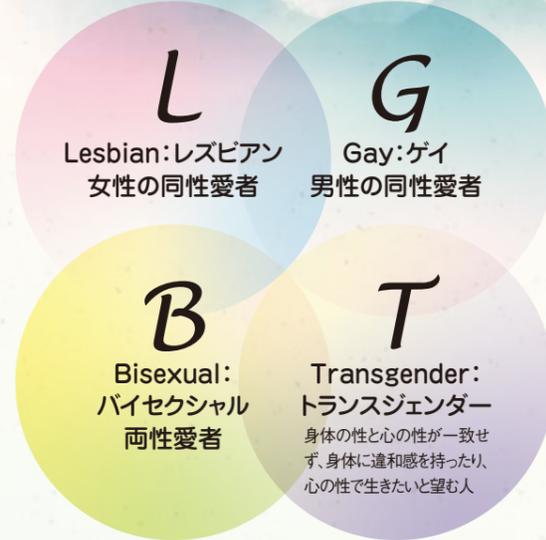
「性的指向・性自認(SOGI)を理由とする偏見や差別をなくすこと」は、法務省の平成30年度人権の啓発活動の強調事項に含まれています。近年「LGBT」や「性的マイノリティ」という言葉を聞く機会は増えていますが、偏見や差別が解消されたわけではありません。

今年、国会議員による同性愛者に対する差別的な見解を掲載し、さらにその後その意見を擁護する特集を掲載した月刊誌が休刊(事実上の廃刊)するという問題がありました。それらの記事の中には、偏見や無知による明らかな誤解や事実誤認を含んだ表現が多く見られました。なぜ、このような偏見や差別が繰り返されるのでしょうか？

## 性的マイノリティの生きづらさ

LGBT法連合会が発表した、SOGI(性的指向・性自認)を理由とする「困難リスト」(2015年第2版)を見ると、子どもから高齢期まであらゆる年代で、家族、教育、就労、医療、公的サービス・社会保障など、日常生活で当事者が困難を経験していることが分かります。「親からゲイの息子なんていない、と言われた」「学校で『男のくせに』『気持ち悪い』『おかま』『ホモ』『レス』など侮蔑的な言葉を投げかけられ、自尊感情が深く傷付けられた」「職場でカミングアウト(自らの性的指向や性自認を他者に表明すること)したら、『あいつはホモ/レスだから気をつける』と言いつらされた」など、家庭、学校、職場で性的指向を理由とする差別的な言動を受けた経験も数多く挙げられています。

### LGBTとは



SOGIで表すと「LGB = SO(性的指向)」「T = GI(性自認)」の問題です。

LGBTは、性のあり方の一部に過ぎず、それ以外にも多様な性のあり方があります  
(例) ■ 無性愛: 他者に性的に惹かれたり、性的欲求が存在しない(少ない)人 (Asexual: アセクシュアル)  
■ Xジェンダー: 男性・女性のどちらでもない、どちらでもある、どちらかに決めたくない人

岡山大学ジェンダークリニックの中塚教授によれば、心の性と身体の性が一致しておらず、身体に違和感を持つ人(トランスジェンダー)の中で、性同一性障害の診断を受けた人に対する調査では、自殺念慮が約5~6割、自傷・自殺未遂が約3割、不登校が約3割という結果となっています。彼らの8割以上が、小学生の頃、性別違和感を誰にも伝えておらず、その背景に「自分はおかしい」「言っても分かってもらえない」という感情があることが報告されています。このように、偏見や差別を恐れて、ありのままの自分を出せず、誰にも相談できずに孤立し、苦悩を抱えている人もいます。

## LGBTからSOGIへ ~わたしたちにできること~

国際的な人権の議論の場で、LGBTという当事者の集団を表す言葉から、SOGIという属性を表す言葉を使用する動きが広がっています。SOGI(性的指向・性自認)はすべての人が持つ属性です。異性愛者で性別違和感がないというSOGIを持つ人だけが社会・制度の中で守られ、それ以外のSOGIを持つ人は、「あたかも存在しないかのように」、自分の性のあり方を否定されることは問題ではないでしょうか？自分の身近な大切な人がもしそうであつたら？

「女らしさ」「男らしさ」などのジェンダー規範にとらわれない、多様な性を認め合える社会こそが、誰にとっても「自分らしくありのままに」生きられる社会であると考えます。まずは、関心を持ち、多様な性のあり方を知り、自らの「あたりまえ」を問い直し、違いを認め合う努力が私達に求められるのではないのでしょうか。

文：長澤 紀美子 氏 (ながさわ きみこ)

上智大学大学院(修士・社会福祉学)、新潟大学大学院(博士・学術)修了。現在、高知県立大学社会福祉学部において「国際福祉論」「女性福祉論」等を担当し、社会福祉士養成教育に関わる。第2次・第3次高知県DV被害者支援計画策定委員会委員。2016年、高知県でLGBT啓発活動を行う任意団体「ソーシャルアライ・コナツハット」を設立し、共同代表を務める。



### コラム 1 SOGI(性的指向・性自認)とは SOGI: Sexual Orientation and Gender Identity

私たちは、一人ひとりが、生まれ持った体の性別を持っているのと同じように、「好きになる相手の性(Sexual Orientation: 性的指向)」と、「自分の認識する性別(Gender Identity: 性自認)」を持っています。これらを総称して「SOGI(ソジ)」と言います。

SOGIには、「人はそれぞれ異なる性的指向と性自認を持っており、互いにそれを尊重しよう」という意味があります。

※「電通LGBT調査」(2015)によれば、性的マイノリティに該当する人は7.6%、およそ13人に1人いるとされています。

### コラム 2 世界の動き、日本の動き

国際社会では、異性愛者であっても同性愛者であっても「婚姻の平等」が認められる国が増えています。2017年にドイツ、オーストラリアが加わり、先進国25カ国で同性婚が認められることとなりました。アジアでは台湾で同性婚を認めない民法が違憲とされ、法改正が義務付けられました。

日本では、同性婚は認められていないものの、東京都渋谷区の条例(2015年)に続き、世田谷区、三重県伊賀市、兵庫県宝塚市、那覇市、札幌市、福岡市・大阪市・東京都中野区等で、要綱に基づき、同性パートナーシップの証明を発行しています。

それ以外にも、男女共同参画条例等で性的指向・性自認を理由とする差別を禁止する条例を持つ自治体(東京都文京区、多摩市、国立市、世田谷、東京都(2019年より施行))や「支援宣言」を持つ自治体(淀川区・那覇市)、「窓口対応の手引き」の発行や専用の相談窓口の設置等を行う自治体の数も増えています。

お互いを認め合う  
気持ちが必要だね！



# こころんの社会見学

## オレンジリボン運動の現場から ～広がる、子ども虐待予防の輪～

オレンジリボン運動は、2004年、栃木県で起こった幼い兄弟の虐待死をきっかけに広がった児童虐待防止を目指す市民運動です。高知県では、2009年から、児童家庭支援センター、児童養護施設協議会、社会福祉協議会が中心となって様々な啓発イベントや講演会などを行ってきました。

今回は、実行委員の一人、谷本恭子さんにお話を伺いました。



●お話ししてくれた人  
社会福祉法人みその児童福祉会  
高知聖園天使園 園長  
谷本 恭子 さん



## 子どもと家族の笑顔のために

高知のオレンジリボン運動は、「子どもと家族の笑顔のために」をスローガンにしています。実は、児童虐待防止を前面に出し過ぎるとお母さん、お父さんの中にはつらくなって向き合えなくなる方もいらっしゃるんですね。子育ての中の様々な葛藤やいらだちは誰にでもあることです。それを周囲の人が理解し、子育て家庭を支えていくことが大切。だからこのオレンジリボンには「児童虐待防止」だけでなく、「一緒にお話しましょう、気持ちを分かち合いましょう」というメッセージが込められているんです。

## 「たすきウォーク」で想いをつなぐ

第10回を迎えた今年のキャンペーンは、10月21日(日)、高知市帯屋町商店街で行われました。メインは「たすきウォーク」。これは、オレンジリボンの想いをたすきに託してつなぐという趣旨のもので、支援者だけでなく多くの皆さんと一緒に参加してくださいました。今年は人権啓発センターから「こころん」も来てくれましたね! とってもかわいく癒やされました(笑)。

これまで、西は佐川、東は夜須のヤシ・パークをスタートして中央公園にゴールする「たすきリレー」や、高知城をオレンジ色に染める夜間ライトアップなどいろいろなイベントを行ってきましたが、それぞれにあたたかい出会いがあって、想いがつながっていくのを感じました。今後はさらに、東西に広い高知県の端から端までカバーできるよう、子どもの虐待防止の輪を広げていきたいと思っています。

## こころんの たすきウォーク レポート



1 出発は中央公園前

2 開会宣言をする春野高校3年生



3 吹奏楽は城北中学校、バトンは清和女子中等学校の皆さんが協力



こころんも参加したよ～!



4 大橋通り前まで歩きました!

立場や年齢を超えて一緒にウォーク



みんなの気持ちがひとつになったね!

## 子どもの幸せ、家族の幸せ

私がこの問題に関わるようになった最初の一步は、乳児院で親と離れて暮らす赤ちゃんをお世話させていただいたことです。さらに自分が結婚し出産をすると、子どもの気持ち、親の気持ちについてより深く考えるようになりました。

私たちの児童養護施設にいるある子は、虐待を受けたつらい記憶があっても、「やっぱりお母さんと暮らしたい」と言います。また、あるお母さんは、「育てにくさがある、つい手が上がってしまった。子どもに申し訳ないことをした」と気持ちを吐き出します。

本当は、親子は離れずに暮らしていくのが一番いい。でも現実には、離してあげないと子どもは傷つき、親も苦しむというケースがあります。子どもの大切な命、心、人権を守るためには親子分離という援助が必要ですが、そこまで追い詰められる前にもっとできることがあるのではないかと。

そこで現在、私たちは児童家庭支援センターを開所し、地域の中で子どもと親を支える相談援助を行っています。お母さんが抱える子育てのしんどさに寄り添うことで、親と離れなくてもいい子が少しでも増えてくれたらと願っています。

## ●過去のオレンジリボンキャンペーン



たすきリレー



高知城のライトアップ

## “あたたかいまちづくり”が鍵に

よく、地域の方から「児童虐待防止のために私たちに何ができますか?」と聞かれます。子育て中のお母さんは、実は孤独。本当にささいな声掛けでも嬉しいという声を耳にします。スーパーで気さくに話しかけてくれた。雨の日にちょっと手助けしてくれた。そういう何気ない関わりが、人の心をほぐすことも多いんです。あたたかい声掛けのできるまちづくりが、子どもの虐待防止にもつながっていくと思っています。

地域全体で子育てするって  
ことなんだね!ステキだな～



児童相談所全国共通ダイヤル

子ども虐待防止 オレンジリボン運動

いち はやく SOSは、いち・はや・く

189

こんなときはすぐにお電話ください!

- もしかしたら虐待を受けているかも...
- 子育てが辛くつい子どもにあたってしま...
- 近くに子育てに悩んでいる人がいる...

「出産や子育ての悩み」「もしかして虐待では?」などの相談やSOSができる電話です。お近くの児童相談所につながり、365日24時間、専門家が対応します。(プライバシーは厳守されます)

※一部のIP電話はつながりません。また、通話料がかかります。

## 第22回 じんけんふれあいフェスタ

～考えよう相手の気持ち  
未来へつなげよう 違いを認め合う心～

日時：2018年12月9日(日)9:30～15:30  
場所：高知市中央公園

啓発・体験コーナーや子ども食堂、子ども広場、ボッチャ体験コーナー。また、点字の名刺づくり、バリアフリー図書やスタンプクイズラリーなどもあり、子どもから高齢者までが楽しめる催しが盛りだくさんです。ぜひ、会場へお越し下さい。



※詳しい内容は、当センターのホームページに掲載しています。

## ステージプログラム

- 9:30～9:55 オープニングセレモニー (一響館 赤侍の和太鼓演奏)
- 10:00～10:20 人権作文コンテスト表彰式
- 10:30～11:00 それいけ!アンパンマン ショー 1回目
- 11:05～11:25 高知工科大学KOCO 'Aアカベラコンサート
- 11:30～11:50 介助犬デモンストレーション
- 11:50～12:00 障害者スポーツ紹介
- 12:40～13:00 子どもじんけんミュージカル (高知リトルプレイヤーズシアター)
- 13:10～13:40 「障害者週間の集い」表彰式
- 13:45～14:15 それいけ!アンパンマン ショー 2回目
- 14:20～14:40 ちゃれんじTheじんけんクイズ
- 14:50～15:30 中村 中(かみア)コンサート



高知オレンジリボンキャンペーン  
実行委員会も出展しています!!



## スポーツ組織連携事業

## 冠協賛試合を開催しました

日時：2018年9月14日(金) / 来場者：807名 / 場所：高知市営球場  
協力：高知地方法務局・高知県人権擁護委員連合会

高知ファイティングドッグス対徳島インディゴソックスの冠協賛試合を開催しました。当日は、試合開始前と5回裏終了後に、グラウンド内で、「考えよう相手の気持ち未来へつなげよう違いを認め合う心」及び「子どもの人権110番」の横断幕を掲げ、人権啓発(LGBTなど)のアナウンスを行いました。また、来場者には人権啓発の案内チラシやリーフレット、啓発グッズを配布し、アンケートにもご協力いただきました。その結果、今後このような人権啓発を目的とした試合を行うべきだと思いますかという問いに「行うべき」との回答が99%と大変高い評価をいただきました。今後もスポーツ組織と連携・協力して、人権問題に理解と認識を深めていただけるよう活動していきたいと思っております。



## アンケートより

- 野球の試合で人権問題の啓発をしていることは意外でしたが、再認識させられました。大事な事だと思います。ありがとうございます。
- この夏、LGBTについての講演会を初めて聞きました。大変良かったです。自分も知らないことが多くあったのでぜひ積極的におこなってほしい。まずは「知る」ことから。
- 意外な場での啓発活動に驚きましたが、良いことだと思います。

## 第1回 ハートフルセミナー

「あってはいけない違い、なくてはならない個性 ~次世代につなぐ人権のバトン~」  
ジェフ・バーグランドさんによる講演会を開催しました

日時：2018年10月28日(日) / 参加者：63名  
場所：高知県立人権啓発センター6階ホール

アメリカ合衆国南ダコタ州生まれで、京都外国語大学教授のジェフ・バーグランドさんをお招きし、日本人と外国人との違いについてご講演いただきました。

京都在住49年で日本人以上に日本の文化を愛する一人でもあるジェフさんは、流暢な日本語で、とてもわかりやすく、日本人と外国人の特性や違いを認め楽しむこと、また、個性を大切にすることがコミュニケーションにつながっていくなどをお話いただき、とてもユーモア溢れる講演会になりました。



## ふりかえりシートより

- 難しい話ではないところから始めて、各自で人権を考えるきっかけになったのがよかった。
- 楽しくわかりやすい人権学習会をありがとうございました。
- 楽しいお話で、普段考えないことについて考える時間があり良かったです。
- ユーモアたっぷりのお話の中、文化の意義、人間は基本的に理解しあえる要素があるのだとしみじみ感じました。

## 第2回 ヒューマンパワー育成講座

「ハラスメント最新情報 ~あなたの理解で大丈夫ですか?~」  
金子雅臣さんによる講演会を開催しました

日時：2018年11月7日(水) / 参加者：101名  
場所：高知県立人権啓発センター6階ホール

一般社団法人職場のハラスメント研究所代表理事の金子雅臣さんによる講演会には、企業・団体から多くの参加がありました。

ハラスメントとは、悩まされること、迷惑なことであり、他人に対する発言や行動などが、本人の意図に関係なく相手を不快にさせることなど、様々な問題についての説明がありました。「嫌なことは嫌と言える環境を作り出し、NOと言えるようにする」ことが重要であること、また裁判例の具体的な解説もあり、とてもわかりやすく参考になる講演会でした。



## ふりかえりシートより

- 具体的な例をあげていただいたので、とても分かりやすかった。
- 普段の業務の中で本人が自覚なく行っている行為や言動について、スタッフ同士がなんでも言い合える環境づくりが重要だと改めて思った。
- 「パワハラは職場の話合いで…」というお話は新しい視点で、ぜひ実践したい。



1月20日(日) 14:00~16:00 ※受付13:30~



平成30年度 人権啓発研修 第3回ハートフルセミナー

## 講演会「生きる」ことを支える ~「介護」ではなく「支援」を~

参加費無料 定員100名(予約優先)

講師

和田 行男 氏

(介護福祉士、株式会社 大起エンゼルヘルプ取締役、  
一般社団法人「注文をまちがえる料理店」理事長)

会場

高知県立人権啓発センター6階ホール

## 講師紹介

1955年高知県生まれ。1987年国鉄職員から福祉の世界へ。特別養護老人ホーム、在宅サービスセンター、老人保健施設などで寮父、生活相談員などを経験。現在は、東京・荒川区でグループホーム、認知症デイ、ショートステイ、小規模多機能型居宅介護等を総括。

認知症の度合いや身体能力などを見極めながら、できる限り“普通の暮らし”を維持できるよう奮闘し続ける。

2012年、「プロフェッショナル仕事の流儀」(NHK)に出演。2017年、世界中で話題になった「注文をまちがえる料理店」の実行委員長を務める。現在、「楽ラクワンポイント介護」(NHK Eテレ)に出演中。主な著書に「大逆転の痴呆ケア」「だいたいぶ認知症」など。

2月2日(土) 14:00~16:30 ※受付13:30~



平成30年度 人権啓発研修 第4回ハートフルセミナー

## 映画「ドリーム」上映会

参加費無料 定員200名(予約優先)



会場

高知県立人権啓発センター6階ホール

作品紹介 NASAを支えた知られざるヒロインたち。実話に基づく感動のサクセス・ストーリー

アメリカの宇宙開発史に実在した“知られざるヒロインたち”に光をあてたヒューマン・ドラマ。

3人の黒人女性が1960年代に色濃く残っていた人種差別などのハードルを乗り越え、NASAの有人宇宙飛行計画において多大な貢献を成し遂げていった姿を映し出す。

## スタッフ&amp;キャスト

出演：タラジ・P・ヘンソン / オタクヴィア・スパンサー / ジャネール・モネイ / ケビン・コスナー  
監督：セオドア・メルフィ



2月24日(日) 10:00~12:00 ※受付9:30~



平成30年度 人権啓発研修 第5回ハートフルセミナー

## 映画「私はワタシ over the rainbow」上映会

参加費無料 定員200名(予約優先)

ゲスト  
トーク

大久保 暁 氏

(暁project代表)

会場

高知県立人権啓発センター6階ホール

作品紹介 今もなお、発信活動をするセクシュアリティ50人にインタビュー。ありのままを語るLGBTsドキュメンタリー映画。

## プロデューサーメッセージ

LGBTセクシャルマイノリティという言葉は急速に広がっているようにも見えますが、まだまだ「まぜこぜの社会」を実感するには至っていません。色んな分断、ボーダーがあるようです。この映画の想いが、お子さんから高齢者、ありとあらゆる立場・思想の人に届き、誤解、勘違い、思い込み、偏見、差別など、見えぬ壁が崩れればと願っています。

(女優・一般社団法人Get in touch 代表 東 ちづる)

## 大久保 暁氏プロフィール

性別適合手術をし戸籍を女性から男性へ移行したトランスジェンダー当事者。「LGBT」という言葉のない世界を築くべく、性の多様性について啓発活動を展開。幼少期からかわる学校現場の先生方に伝える研修や、生徒向けの講演会など、幅広く活動中。土佐女子中学高等学校出身。



ぜひご参加ください!

お申し込み・お問い合わせは (公財) 高知県立人権啓発センター ☎ 088-821-4681

## じんけんライブラリーをご存知ですか？

### 5F じんけんライブラリー

人権に関する図書、視聴覚教材、パネルの貸出を無料で行っています。  
ホームページ内の「じんけんライブラリー検索」では人権課題別の蔵書検索もできます。

#### 利用方法

- ご利用の際は、「じんけんライブラリー」利用カードが必要です。  
カード発行は無料、その場でお作りします。
- 直接ご来館できない場合は、送付もいたします。(送料は利用者のご負担となります)

	図書	ビデオ・DVD	パネル	団体図書
貸出限度	5冊以内	2本以内	3セット以内	50冊以内
貸出期間	2週間以内	2週間以内	1ヵ月以内	1ヵ月以内



#### 団体図書貸出について

小・中学校、高等学校ほか、地域で読書普及活動を行う団体やグループに、様々な人権問題についての図書の団体貸出を行っています。ご希望の図書について、お気軽にご相談ください。

## ホール、視聴覚室もご利用ください

### 6F ホール (収容人員 270人 机併用の場合は180人)

講演会、研修等のイベントにご利用ください。

基本使用料(平日)			時間外使用料
午前	午後	全日	平日時間外、土・日・祝祭日
9:00~12:00	13:00~17:00	9:00~17:00	1時間
8,490円	11,360円	17,880円	4,250円

冷暖房使用料…1時間 / 610円 (1時間未満の時は、1時間として計算します)

- この表に定める時間区分には、実際に利用する時間のほか、その準備・片付けに要する時間を含みます。
- 時間外使用料は、利用時間が1時間未満でも1時間として計算します。



5F じんけんライブラリー



6F ホール

### 4F 視聴覚室 (利用無料 / 収容人員 48人)

視聴覚機器を利用する研修等にご利用ください。

※人権に関する研修等にのみ使用できます。

詳しくは  
ホームページを  
ご覧ください!



こころん



4F 視聴覚室

## 「じんけんライブラリー」 LGBT(性的マイノリティ)に関するDVD紹介

タイトル	時間
▼ Pick Up!! あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権	30分
LGBTを知ろう	20分
見過ごしていませんか 性的少数者(LGBT)へのセクシュアルハラスメント	29分
誰もがその人らしく - LGBT -	20分

- じんけんライブラリーではLGBT(性的マイノリティ)に関するDVDを7本、図書を約50冊所蔵しております。ぜひご利用ください。

#### ▼ Pick Up!!

#### あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権

性・セクシュアリティはとても多様です。しかし、それをしっかり理解している人はごくわずかでしょう。そのため、性的マイノリティの多くが、生きづらさを感じています。誰もがありのままを受け入れられ自分らしく生きたいと望んでいます。そんな社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。

#### MAP



公益財団法人

高知県人権啓発センター <http://www.kochi-jinken.or.jp/>

〒780-0870 高知県高知市本町4丁目1番37号 高知県立人権啓発センター 5階  
TEL : 088-821-4681 / FAX : 088-821-4440 / E-Mail : center@kochi-jinken.or.jp

こころんだより Vol.7 2018年12月発行 (年4回発行)

制作・印刷：有限会社ファクトリー 発行：公益財団法人 高知県人権啓発センター